

平成24年4月10日

## 70代の2割以上がネットを利用、60代では5割を超える

～ 大都市シニアのネット利用率は60代で70%超え ～

電通総研では、東京大学大学院情報学環の橋元良明教授と産学共同研究組織「DENTSUデジタルシニア・ラボ」を立ち上げ、シニア層のインターネット利用に関する研究を行ってきました。同ラボでは、一昨年、昨年と実施した東京地区調査に続き、本年は初の【1】「シニア全国調査」を実施しました。また、昨年4月から電通総研・東京大学 橋元教授・NP0法人PCTOOL（ピーツール）を運営主体として1年間実施された【2】「フィールド実験調査」も、本年3月末に完了しました。これら2件の最新調査の結果分かったことのポイントは、以下の通りです。  
※両調査の詳しい概要や結果については、『詳細編』にてご確認ください。

### 調査結果トピックス

#### 【1】「シニア全国調査」から

##### ① 60代の半数以上が既にネットを利用し、70代でも2割を超える

使用機器に係わらず、何らかの形で、インターネット利用をしている人の割合は60代で既に57.0%（全国平均）に達しており、2000年（4.5%）、2005年（25.0%）、2010年（48.8%）と年々増加する傾向にあります。70代においても、2012年のネット利用率は23.3%に達しています。  
\* 2000年、2005年、2010年データの出所は別調査（詳細編に示す）

##### ② シニア層のネット利用は大都市圏ほど進んでいる

大都市（東京都区部を含む100万人以上の市）のネット利用率は全国平均を上回り（60代 70.2% / 70代 26.3%）、人口の少ない都市になるほど低いという実態が明らかになりました。

##### ③ ネット利用がシニアにもたらす恩恵は「コミュニケーション」が第1位

“ネット利用を始めて良かったこと”については「友人・知人とのコミュニケーションが増えた」という項目が第1位になりました。（60～70代全体で 55.7%）

#### 【2】「フィールド実験調査」から

##### ④ シニア目線での適切な手法を用いれば、非デジタル層もデジタルシニアへ

PCやネットの経験がないシニアも、適切な手法を用いれば、1年でネットショッピングやソーシャルメディアまでもを使いこなすデジタルシニアになれることが分かりました。

##### ⑤ ネット利用は、シニアライフをよりアクティブなものにする

シニアがネット利用を習得すると、生活・健康・趣味等の情報入手やネットショッピングなどを積極的に行い、シニアライフがよりアクティブなものになることが分かりました。

<本件の問い合わせ先> (株)電通 電通総研 デジタルシニア・ラボ 研究部内  
DENTSU デジタルシニア・ラボ 長尾、庄野 (Tel 03-6216-8093)

### ● シニア全国調査の概要 ●

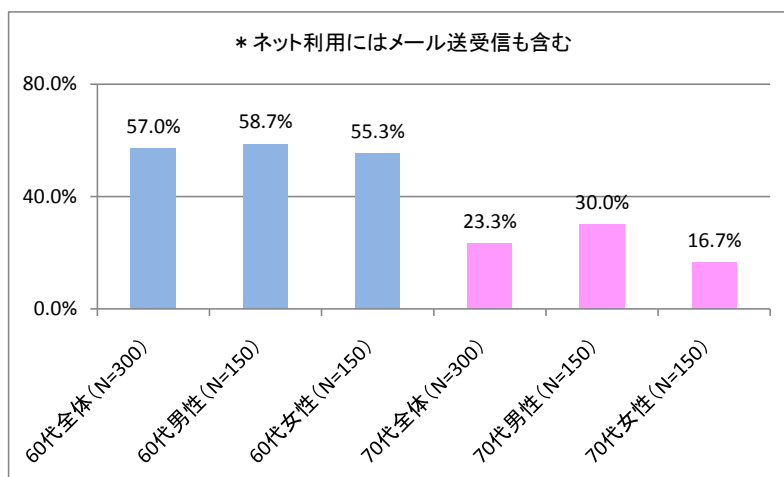
- ◇調査目的： シニア層のネット利用動向について、2012年における最新の状況を数値として把握する。同時に、ネットを利用する層としない層のそれぞれのメディア意識や心理傾向、行動習慣等についても分析する。
- ◇調査地区： 全国
- ◇調査対象： 60才から79才までの男女、計600人。  
(60代男性、60代女性、70代男性、70代女性、それぞれ150名ずつ)
- ◇抽出方法： ランダムロケーション・クォータサンプリング（調査地点数：100地点）
- ◇調査方法： 調査員による訪問留置き式調査（日記式調査票とアンケート調査票）
- ◇調査期間： 2012年1月13日（金）～1月23日（月）
- ◇調査会社： 株式会社山手情報処理センター

### ● シニア全国調査の結果 ●

#### ① 60代の半数以上が既にネットを利用し、70代でも2割を超える

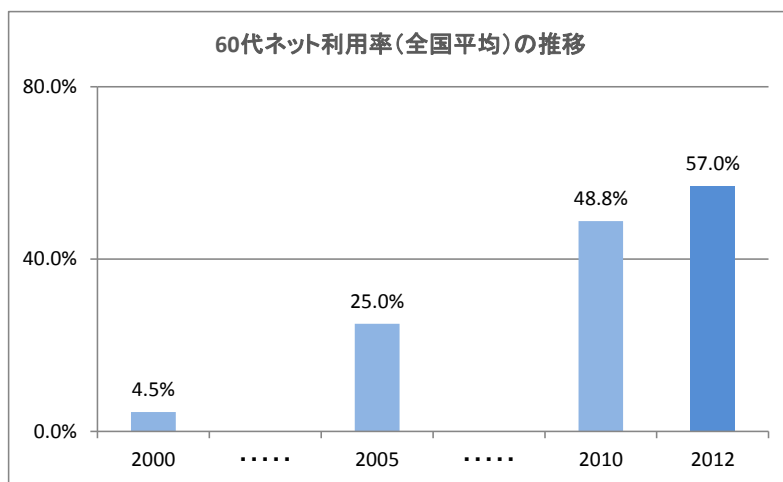
シニア全国調査では、ネット利用率（使用する機器の種類に係わらず、何らかの形でインターネットを利用している人の割合）は60代で57.0%という結果になり、既に半数以上が利用していることが分かりました。（グラフ1）

（グラフ1）シニア層のインターネット利用率（機器は問わず）



これを、2000年、2005年、2010年と5年おきに実施されてきた「日本人の情報行動全国調査」（2000年、2005年は東京大学橋元研究室による調査、2010年は橋元教授と電通総研の共同調査）のデータと比べると、ネット利用が着実に増加してきていることが分かります。（グラフ2）

（グラフ2）60代ネット利用率の時系列推移



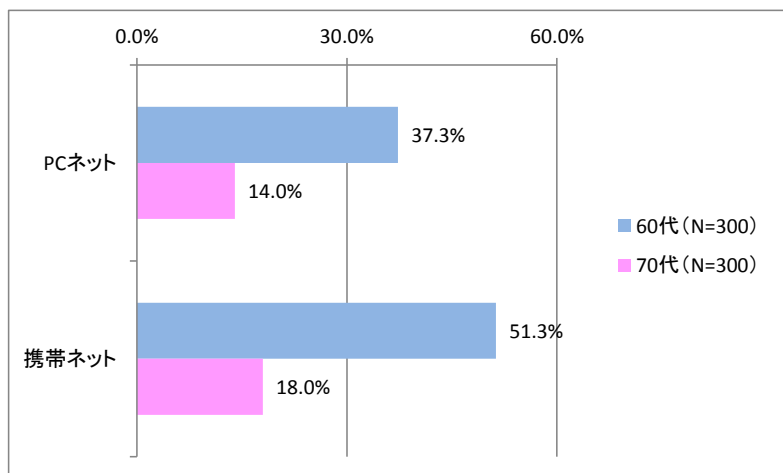
また、シニア全国調査（2012）における70代のネット利用率は男女全体で23.3%に達しており、男性では3割に上ることも分かりました。（グラフ1）

※ 本報告中のネット利用率の数値はメールの送受信も含んだ数字です

※ 「日本人の情報行動全国調査」は60代までが調査範囲のため、70代に関する時系列比較はできません

さらに、ネット利用率を利用機器別に見ると（グラフ3）、60代ではPCネット利用が37.3%、携帯ネット利用（携帯電話及びスマートフォンでのネット利用）が51.3%という結果でした。

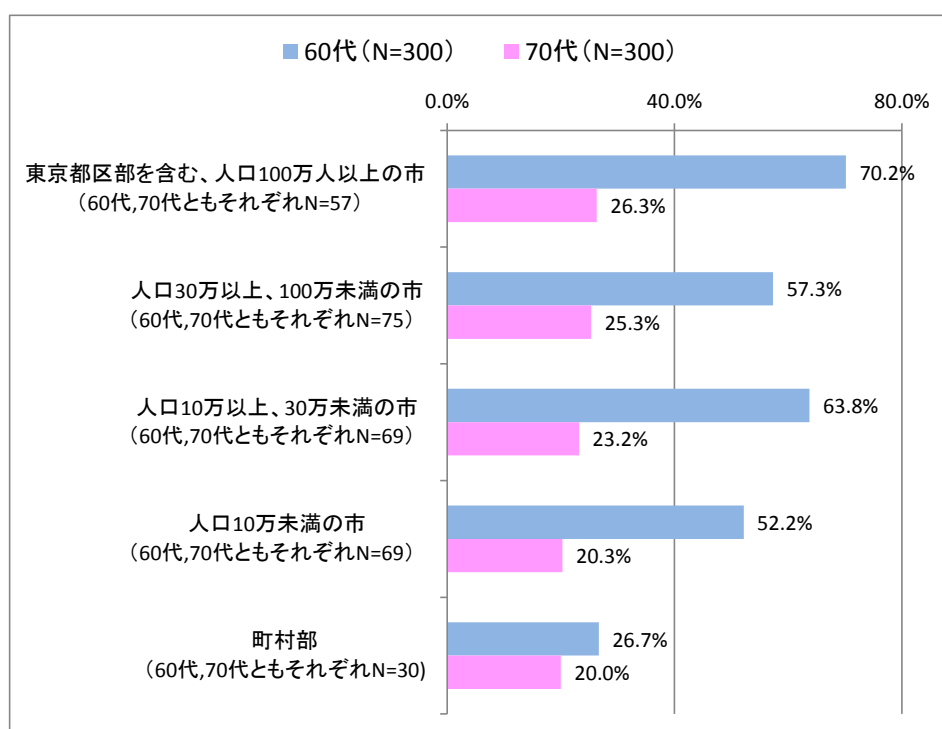
（グラフ3）機器別でのインターネット利用率



## ② シニア層のネット利用は大都市圏ほど進んでいる

今回はシニア層を対象とした初めての全国規模調査となりました。これにより地域間の比較分析が可能になりました。そこで、都市の人口規模で比較したところ、大都市圏はシニア層のネット利用がより進んでいることが確認できました。具体的には、大都市（東京都区部を含む100万人以上の市）ではネット利用率が高く（60代 70.2% / 70代 26.3%）、人口10万人未満の都市ではその数値が低くなる（60代 52.2% / 70代 20.3%）といった結果となり、大都市になるほどネット利用が浸透している実態が明らかになりました。（グラフ4）

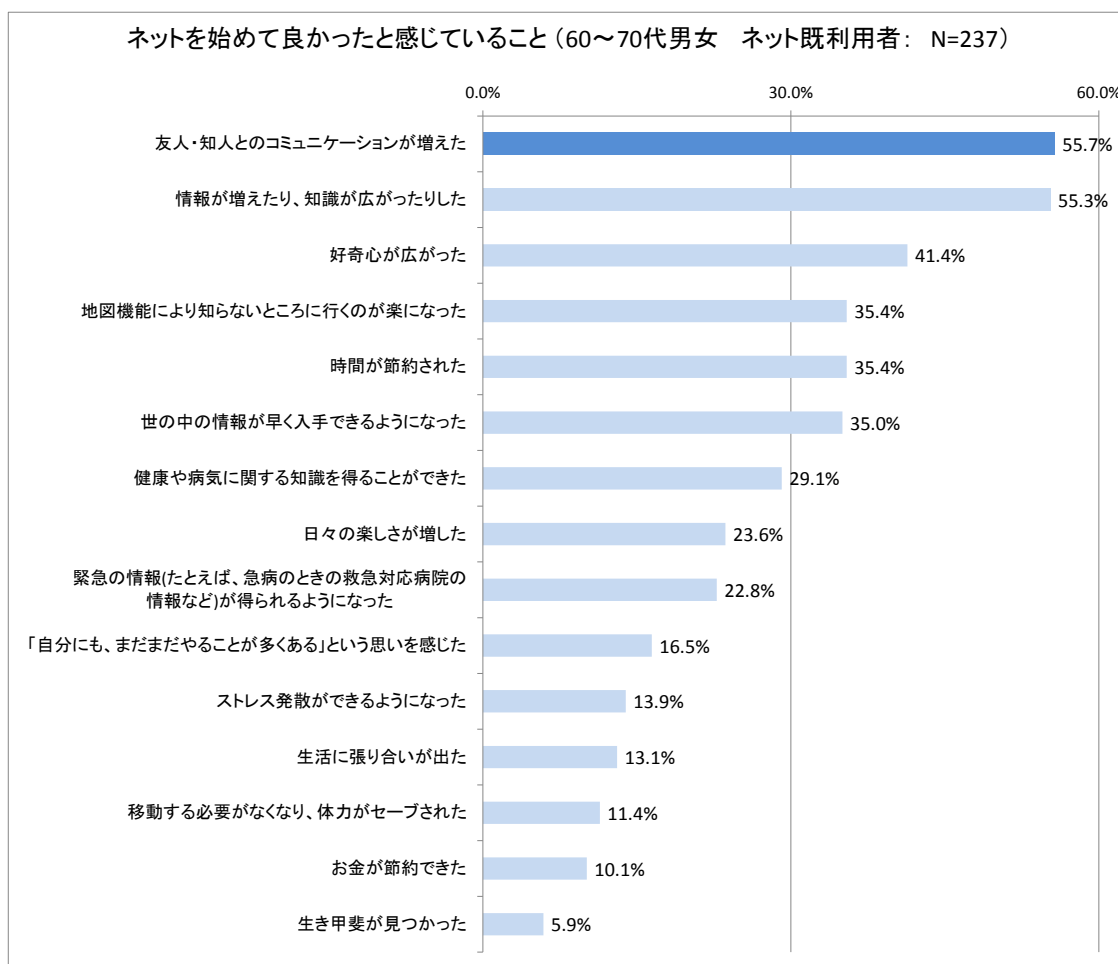
（グラフ4）都市の人口規模別でのインターネット利用率



### ③ ネット利用がシニアにもたらす恩恵は「コミュニケーション」が第1位

60代から70代のシニア層のうち何らかのネット利用をしている人に、“ネット利用を始めて良かったこと”について聞いた質問（マルチアンサー式）では、グラフ5に見る通り、選択項目の中で「友人・知人とのコミュニケーションが増えた」という項目にYesと回答した人の割合が第1位に上がりました（60～70代全体で 55.7%）。次いで、「情報が増えたり、知識が広がったりした」が、ほぼ同スコアの第2位にランキングされました（同 55.3%）。ネットから享受する恩恵として情報量の増加に関連する項目が上位にあがったのは、ある意味当然の結果とも言えますが、人とのコミュニケーションに関する項目も最上位に入ったことは注目すべき点です。

（グラフ5）ネット利用のもたらす恩恵



## ● フィールド実験調査の概要 ●

- ◇調査目的： 過去にパソコンやインターネットを一切利用したことがないシニア層に対して1年間のパソコン講習を行い、短期間でもそれらをアクティブに使いこなせるデジタルシニアになれるかどうかについての実証実験を行う。  
同時に、ネット・リテラシーを持つことが、情報行動、消費行動、コミュニケーション、幸福感などにおいて、どのような変化をもたらすかを観察する。
- ◇実験地区： 富山県
- ◇運営主体： 電通総研、東京大学大学院情報学環 橋元良明教授、NPO法人PCTOOL（ピーツール）
- ◇調査対象： 60代から70代前半までの男女、計13名。選定条件は、過去にワープロ機やパソコンを一切使ったことがない人。（携帯電話を所有している場合、通話・メール以外のことは行ったことがないことを条件とした）
- ◇抽出方法： 本実験の趣旨を説明するシニア向けイベントなどで協力者を募集した。
- ◇実験期間： 2011年4月6日（水）～ 2012年3月28日（水）
- ◇実験方法： NPO法人PCTOOLが調査対象者を毎週水曜日に招集し、月当たり3回、1回当たり2時間、パソコンやインターネットの講習を行った（1年間で計36回の講習を行い、延べ72時間を投下）。そして、講習のスタート前、講習開始6か月後、及び12か月後（講習終了時点）の3つのタイミングでアンケートやインタビューを行い、メディア利用、消費行動、生活満足度、幸福感などに関する変化をトラッキングした。
- ◇調査協力： ㈱ビデオリサーチ

## ● フィールド実験調査の結果 ●

### ④ シニア目線での適切な手法を用いれば、非デジタル層もデジタルシニアへ

PCやネットが未経験のシニア層（非デジタルシニア）がその利用を体得していく際、若年層の場合に比べると、より多くの壁が存在します。しかし、途中での挫折を防ぐためのノウハウに基づいた「適切な手法」を用いれば、1年でもデジタルシニアになれることが、フィールド実験調査によって実証されました。この「適切な手法」は、富山県で長年高齢者のIT支援活動を行っているNPO法人PCTOOLが培ってきた独特のノウハウに基づくもので、以下のようなものが挙げられます。

- ・「楽しさ第一主義」
- ・シニア特有の「デジタル不安」や「つまづきポイント」の除去
- ・シニアへのデジタル講習で有効となる「ことば選び」や「たとえ表現」
- ・高齢者に配慮した「独自のテキストブック」の工夫
- ・「自分との関係性」の体感的理解と「自分から掴み取った意識」の醸成
- ・「サークル形式」での運営と「横の繋がり」の確立

- ・教える側と教わる側の間の「高さ合わせ」
- ・「孫」とのコミュニケーションを深める仕組み
- ・講習内容に「ストーリー性」をもたせる
- ・「ミッション」を与えること、「達成感」を感じさせること

#### ⑤ ネット利用は、シニアライフをよりアクティブなものにする

同フィールド実験に参加した方々は、1年の間にネット・リテラシーを身に付けた結果、

- ・「健康管理のための調べごとを、ネットでするようになった」
- ・「グルメサイトで美味しい店を発掘し、夫婦で食べに行くようになった」
- ・「旅行の予約を、ネットでどんどん行うようになった」
- ・「飼っているペットのカゴを、ネットショッピングで取り寄せた」

など、よりアクティブな生活を送るようになったと語っています。

また、

- ・「孫からメールが来るようになったことが、嬉しくて仕方がない」
- ・「家族から“最近イキイキしてるネ!”と言われるようになった」

など、心理面でのポジティブな変化について語る方も多く見られました。

今回の調査結果に見られるように、シニアライフをアクティブにするネットの活用は、より豊かな高齢社会の創造と日本経済の活性化にも繋がるものとDENTSUデジタルシニア

- ・ラボは考えています。

以上